

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス						
教科目名	建築史 II	担当教員	清水隆宏			
学年学科	3年 建築学科	後期	必修	1 単位		
学習・教育目標	(D-2) 100%					
授業の目標と期待される効果： 日本建築の形成・発展を歴史的に遺構や文献史料を通じて、その伝統的特質を理解する。また、日本建築の空間・技術・意匠の特質を理解した上で、現代建築設計への活用を期待する。 授業目標 ①日本の伝統的な木造建造物に関する、基礎的な専門用語を理解する。 ②寺院建築の様式、神社建築の形式などを理解する。 ③日本建築における歴史的変遷過程を、理解する。		成績評価の方法： 中間試験 100 点、期末試験 100 点、合計 200 点の総得点率 (%) により成績評価を行う。 また、授業に対する姿勢も考慮し、授業の進行を妨げる行為・消極的な行為に対しては、得点率の 1～10% を減じた値で評価する。 具体的には、出席簿に記載した注意の回数と減点 (%) を対応させる。 達成度評価の基準： ①～③の成績評価の重みは、均等とする。 ①日本建築における基礎的な用語問題が、6 割以上理解できる。 ②寺院建築・神社建築・住宅建築など、各様式・形式に関する問題が、6 割以上理解できる。 ③日本伝統建築の歴史的変遷に関する総合的な問題が、6 割以上理解できる。				
授業の進め方とアドバイス： 授業では補助的に、スライドや資料を用いて視覚的理解を促すが、休日等を利用した文化財建造物の見学を、自主的に行うことが望ましい。						
教科書および参考書： 教科書：改訂 日本建築史図集（日本建築学会編 彰国社） 建築と都市の歴史（光井渉他 井上書院）						
授業の概要と予定：						AL のレベル
第 1 回：先史（原始）時代の建築						
第 2 回：日本古代の建築－神社建築の成立						
第 3 回： // －飛鳥・奈良時代の寺院建築						
第 4 回： // －古代の住宅建築						
第 5 回： // －平安時代の寺院建築						
第 6 回： // －神社建築の発展						
第 7 回：日本中世の建築－新様式の渡来						
第 8 回：中間試験						
第 9 回：中間試験の返却・解説および評価の説明、ここまでのまとめ						C
第 10 回：日本中世の建築－和様・唐様（禅宗様）・大仏様						
第 11 回： // －書院造の発生						
第 12 回：日本近世の建築－書院造の大成						
第 13 回： // －城郭建築と城下町						
第 14 回： // －数寄屋と数寄屋造						
第 15 回： // －町家と農家						
期末試験						
第 16 回：フォローアップ（期末試験の返却・解説および評価の説明）						

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	日本建築における基礎的な用語について理解できる（8割以上）。	日本建築における基礎的な用語についてほぼ（6割以上）理解できる。	日本建築における基礎的な用語について理解できない。
②	寺院建築・神社建築・住宅建築など、各様式・形式について理解できる（8割以上）。	寺院建築・神社建築・住宅建築など、各様式・形式についてほぼ（6割以上）理解できる。	寺院建築・神社建築・住宅建築など、各様式・形式について理解できない。
③	日本伝統建築の歴史的変遷について理解できる（8割以上）。	日本伝統建築の歴史的変遷についてほぼ（6割以上）理解できる。	日本伝統建築の歴史的変遷について理解できない。